

令和3年6月23日  
オリンピック・パラリンピック推進課

## 令和4年度東京都に対する要望事項について

### － 令和3年度東京都に対する要望事項のその後の経過及び今後の見通し －

- 1 大会開催について
- 2 東京2020大会のレガシーを未来に引き継ぐまちづくりについて

令和3年6月1日現在

(オリンピック・パラリンピック推進特別委員会)

要 望 事 項	要 望 後 の 経 過	今 後 の 見 通 し
<p>1 大会開催について</p> <p>(1) 観客及び関係者輸送については、交通規制や大量の観客移動等により、物流等の経済活動、ごみ・資源の収集等の清掃事業、通勤・通学をはじめとした区民の日常生活等に大きな影響を及ぼすことが想定される。大会期間中の都市活動との両立を図るため、徹底した競技会場周辺の交通対策を講じるとともに、区をはじめとする関係機関との綿密な協議及び調整を行い、東京都及び大会組織委員会が責任をもって地域住民・企業等への説明を実施すること。</p> <p>(2) ラストマイルにおいては警備・観客誘導を徹底し、決して周辺地域の安全・安心を脅かすことのないよう万全の対策を講じること。特に新型コロナウイルス感染症の予防対策については、地域住民が感染の不安にさらされることがないように、ルート上での密集などの対策に万全を期すこと。</p> <p>(3) 大会時のボランティアについて、区独自ボランティア「江東サポーターズ」を活用するなど、多くの区民が参加できる体制とすること。また、各競技会場や聖火リレー等の大会関連イベントにおいて、ボランティアに限らず区内の小中学生をはじめとした区民が参加することができる枠組みを構築すること。</p> <p>(4) 大会開催期間中の、選手、観客、大会関係者等の安全確保のため、猛暑、台風、豪雨、地震などの自然災害及びテロや新型コロナウイルスをはじめとした感染症等について十分な対策を講じるとともに、区民の危機管理に関わる重要な事項については、本区への情報提供や役割分担等、適宜必要な調整を行うこと。</p>	<p>(1) 東京都及び大会組織委員会は、輸送運営上の新型コロナウイルス対策について検討するとともに、大会延期後の輸送の取組み・考え方を「輸送運営計画V2」に反映させ、内容を更新した。</p> <p>競技会場周辺の交通対策については、地域住民・企業等への説明後、公表された。</p> <p>(2) 東京都において、新型コロナウイルス対策を含めたラストマイルの警備・観客誘導について検討を行っている。</p> <p>(3) 東京2020聖火リレーの区内ルートにおいて、沿道の誘導員等として江東サポーターズが従事することとなった。</p> <p>(4) 国、東京都、組織委員会、JOC、JPC、感染症専門家が参加する新型コロナウイルス感染症対策調整会議が発足し、東京2020大会における新型コロナウイルス感染症対策について総合的に検討、調整を行った。</p>	<p>(1) 大会開催期間中は、東京都及び組織委員会において計画に基づいた交通対策を実施していく。</p> <p>(2) 大会開催期間中は、都市運営の中心として東京都オリンピック・パラリンピック準備局が設置する都市オペレーションセンターと連携して、ラストマイルの安全を確保する。</p> <p>(3) 聖火リレー等に従事する江東サポーターズへの新型コロナウイルス対策、暑熱対策を徹底したうえで活動する。</p> <p>(4) 海外から入国する選手、大会関係者等の防疫措置としての行動管理・健康管理を徹底して行うよう、組織委員会に強く求めるとともに、大会開催期間中は都市オペレーションセンターと連携して、迅速な情報収集を行う。</p>

要 望 事 項	要 望 後 の 経 過	今 後 の 見 通 し
<p>(5) 東京2020大会開催関連事業費補助に新型コロナウイルス対策で必要となる費用の補助を加えること。</p> <p>2 東京2020大会のレガシーを未来に引き継ぐまちづくりについて</p> <p>(1) 都が東京2020大会のレガシーとして示した「臨海スポーツゾーン」を含む新たなまちづくりの構想については、現在都において検討されている「有明レガシーエリアのまちづくり」及び「東京ベイエリアビジョン」の中で、具体的なまちづくり構想の策定が見込まれているところである。こうした新たなまちづくりについては、これまで要望してきた事項に加え、学校、子育て支援施設等の将来の行政需要も想定した計画とするとともに、その検討や整備にあたっては、地元住民・企業等の意見に十分配慮し、区と協議を行い、東京都、地域住民・企業、区が連携して取り組む体制を構築すること。</p> <p>(2) 舟運の利用などの水辺の活用を引き続き図るとともに、臨海スポーツゾーンの回遊性の向上の観点からコミュニティサイクルの普及について検討すること。</p>	<p>(5) 東京2020大会開催関連事業費補助に新型コロナウイルス対策に係る経費も補助対象に含まれることになった。</p> <p>(1) 東京都は、新たな都政の羅針盤となる長期戦略として令和3年3月に策定した「『未来の東京』戦略」の主要プロジェクトの一つとして、「東京ベイ eSG プロジェクト」(Ver1.0)を策定し、ベイエリアを舞台とした50年・100年先までを見据えたまちづくりの構想を示した。</p> <p>(2) 「東京ベイ eSG プロジェクト」(Ver. 1.0)の中で、臨海副都心エリアにおけるレガシー魅力発信の取組として、舟運アクセスの検討・整備が示された。 「東京都自転車活用推進計画」の中で、より良い自転車利用環境の創出につなげることを目的とし、晴海・豊洲・有明等地区が自転車活用推進重点地区に設定された。</p>	<p>(5) 聖火リレー及び江東サポーターズ運営費等に東京2020大会開催関連事業費補助を活用する。</p> <p>(1) 東京都が策定した「東京ベイ eSG プロジェクト」(Ver1.0)に基づき、様々な主体との連携体制を構築し取り組むこととされている。</p> <p>(2) 東京都による舟運の利用による更なる水上交通ネットワークの強化と回遊性向上につながるコミュニティサイクルの普及促進の取組に対し、協力していく。</p>

要 望 事 項	要 望 後 の 経 過	今 後 の 見 通 し
<p>(3) 広域的な防災機能強化のため、新規恒久施設について一時滞在施設機能の付与及び災害用備品の配備等を行うとともに、帰宅困難者対策や備蓄計画等について、区と情報を共有すること。また、災害時における救急医療体制の確立を図り、傷病者の搬送方法のひとつとして、船舶搬送も検討し、昭和大学江東豊洲病院の西側岸壁を整備すること。</p> <p>(4) スポーツ振興においては、競技人口が少ない種目に対する選手育成のための競技会場・練習場所の設置及び普及啓発を図るとともに、障害者スポーツの場の充実・強化を図ること。</p>	<p>(3) 新規恒久施設の後利用に関する考え方では、備蓄等の確保を進めるとともに、発災時の一時滞在施設等として活用することが示されている。</p> <p>(4) 東京2020大会に向け、海の森水上競技場や夢の島公園アーチェリー場が完成するなど、競技人口の少ない種目の普及に資する環境整備が進んだ。 「東京都スポーツ推進総合計画」の中で、障害の有無を問わず、全ての人々がスポーツを楽しむことができる社会を実現していくために、スポーツ全般について、バリアフリー化やユニバーサル化を普遍的に展開していくとともに、都民が広くスポーツに親しめる環境を築いていくとの方針が示された。</p>	<p>(3) 大会後の各施設の防災機能の強化について、関係部署と調整をしていく。</p> <p>(4) 各競技場が東京2020大会を契機に、競技の魅力の発信拠点となることが期待される。 「東京都スポーツ推進総合計画」に基づき、個々の分野についての具体的検討が進められていくことから、引き続き東京都の動向について情報収集に努める。</p>